

論文審査の結果の要旨

報告番号	<p>甲 保</p> <p>第 18 号</p> <p>乙 保</p>	氏 名	上田 伊佐子
審査委員	<p>主 査 谷 洋江</p> <p>副 査 葉久 真理</p> <p>副 査 近藤 和也</p>		

題 目 がんサバイバーの心理的適応尺度の開発—信頼性・妥当性の検討—

著 者 上田伊佐子, 雄西智恵美

2016年4月発行 日本看護研究学会誌第39巻第1号に掲載予定

要 旨 本研究目的は、がんサバイバーの心理的適応を測定する尺度 (PACS: The Scale on Psychological Adjustment of Cancer Survivors) を開発し、その信頼性・妥当性を検証することであった。概念分析と内容的妥当性の検討から PACS 原案を作成後、がんサバイバー35名に予備調査し、表面妥当性、項目分析後の探索的因子分析で内的整合性を確認して PACS 原案修正版-46 を作成した。次いで、がんサバイバー301名を対象に、PACS 原案修正版-46 及び属性、外的基準として HADS (Hospital Anxiety and Depression Scale), QOL-ACD (QOL Questionnaire for Cancer Patients Treated with Anticancer Drug), MAC (Mental Adjustment to Cancer Scale) による本調査を行った。有効回答 238 を項目分析と因子分析した結果、18 項目 4 因子【がんと共に生きる自分を受け入れている】【成長した自分がいる】【自分を取り戻している】【うまくやれないでいる】からなる PACS が作成できた。尺度全体の Cronbach's α は 0.87、各下位因子は 0.81~0.85 で内的整合性を、再テストによる安定性が確認できた。外的基準による基準関連妥当性、検証的因子分析による構成概念妥当性を確認し、HADS, QOL-ACD, MAC との相関、および構成概念の属性と下位因子構成から妥当性が確認できた。また、HADS, QOL-ACD, MAC の下位因子との非類似性もグラフィカルに検討できた。さらに検証的因子分析による適合性では GFI=0.898, AGFI=0.865, CFI=0.935, RMSEA=0.057 であり、構成概念妥当性が確認できた。

以上の内容は、PACS の信頼性・妥当性が確認できたことを示している。今後、がんサバイバーの心理的適応の測定尺度として洗練されることが期待できると共に、がんサバイバーの主体的な生き方を支援する看護介入の研究ツールとしての有効性を示しており、その社会的意義は大きく博士の学位授与に値すると判定した。